

きらり 通信

平成27年6月19日(金)発行 第21号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp>

一歩先の、笑顔のために

校長 鹿目 敦子



先日、高等学校の先生方が集まる会議に出席した際のことです。特別な支援を必要とする生徒への対応が話題になりました。すると、すぐに複数の高校から、自校の実践事例を挙げて適切な対応策の紹介がありました。こういった話題が会議の中に日常的に取り上げられていること、そして、すでにいくつもの実践例が語られるようになってきていることに、特別支援教育が確実に広がっていることを実感し、うれしく思うと同時に、さらに特別支援学校の専門性を充実させていくことの大切さを再確認しました。

困っている幼児児童生徒に真剣に向き合っているからこそ、新たな困り感が、保護者の方々や教員の皆さん等、また、支援者の方々の中に生まれていることと思います。

私たち須賀川養護学校は、「地域支援センター きらり」を窓口にして、地域の皆さんと一緒に、一歩前に進めるための活動をしていきたいと考えています。子どもたちがさらに笑顔になれることを願って一緒に頑張っていきたいと思います。

困っていることに気付いたときにすぐに、ライフステージに合わせて、場面に合わせて、そして、先を見通しての支援を、一緒に知恵を出し合い、学び合っていきたいと思います。今年度も、「地域支援センター きらり」のご活用をよろしくお祈りします。



～ きらりからのお知らせ ～ 学校の先生方向けに新しい リーフレットを作成しました



「地域支援センター きらり」では、本校のセンター的機能についての小学校向け、中学校向け、高等学校向けリーフレットを作成しました。特別支援教育に関する校内研修への支援、情報の提供、本校で行っている研修会の案内、指導や支援の相談などについて掲載しています。保護者の皆様とともに、地域の学校や先生方にも本校のセンター的機能を活用していただければと思います。よろしくお祈りいたします。

ぜひ活用して
ください!





視点を替えて見てみると

1枚の絵が、見方によってまったく違うものに見える「隠し絵」と言われるものがあります。右図の「妻と義母」という絵は、見方によって若い女性にも老婆にも見えます。視点を替えることで、今まで見えていなかったものが見えてくる可能性があります。



👉 子どもたちの様子も、見る視点を替えてみると・・・

①「困った子ども」→「困っている子ども」と考えてみる

支援する側からみれば困った行動も、実は「どうしたらよいかわからない」「うまく伝えられない」「できない」等の困っている気持ちの表れなのかもしれません。「何に困っているのか」「どうしたら困らないのか」と考えることが、困った行動を変える糸口になるのではないのでしょうか。

②「できない場面」→「できた場面」から考えてみる

困った行動は、いつも起きているのでしょうか。困った行動が起こる時と起こらない時の違いは何でしょうか。できている状況から考えていくことが、大きなヒントになることもあります。

③「これしかできない」→「ここまでできた」ととらえてみる

例えば、問題を10問解くとします。5問は全員が解く、もっとできそうな人は7問解く、さらにできそうな人は10問解く、5問解くのが難しい場合には教師と相談する、というように、**取り組む量（目標）を調整**することで、自分に合った頑張りができることもあります。

👉 視点を替えるには・・・

「妻と義母」の絵の場合、どちらかが見えてしまうと、もう一方の姿はなかなか見えてきません。視点を替えるためには、他の可能性を意識して見たり、他の人の意見を聞いたりすることが必要です。（文責：深松）

☆きらりちゃん日記☆

たくさん書いても「宿」がおぼえられない

漢字の形を文にしておぼえる方法もあるよ！

大切だけれど、そんな時は書い出してみよう

④ やどかりが
③ 百
② 百
① 百

宿

書いて出してみよう
思いついたら書いてみる

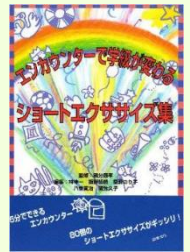
自分で文を考えると楽しい

得意な記憶方法は人によって違います。書くとおぼえやすい、聞くとおぼえやすい、文などにして意味付けするとおぼえやすい...それぞれです。いろいろな方法を試すことも大切ですね。

本の紹介

今回は「すぐに使える！」SSTに関する本を紹介します。

短時間で簡単にできるエクササイズがたくさん紹介されています。受容し受容される体験ができる「そうですね」や「好きなもの、好きなこと」など、大人でも楽しめる内容になっています。（紹介者：木原）



理論から実践までの幅広い内容で、コピーして使えるプリントも載っています。子どもの特徴や獲得したいスキルや目標にあわせて、工夫しながら使うこともできます。（紹介者：滝沢）

「順番を守る」「声の調整」等様々なスキル獲得に向けての「日常でできる原因別サポート法」が、具体的に説明されています。イラストも多く、とても読みやすい本です。（紹介者：大竹）

